

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年12月11日

計画の名称	広島・島根における尾道松江線を軸とした広域観光活性化計画											
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	広島県											
計画の目標	<p>広島県と島根県は、古くから深い繋がりにより、共通の文化・経済圏を織りなし、相互に連携し発展してきた地域であり、この強みは尾道松江線の全線開通により更に強固なものとなった。全線開通により尾道から松江間の所要時間は2時間30分となり、日帰りの旅行圏域となったことに加え無料であることから、沿線の多様な観光資源に気軽に訪れることが可能となり、沿線地域の総観光客数が5年間で約1,000万人増加している。まもなく訪日外国人観光客数がアクティブシニア層人口を超えること、人口減少により国内の観光需要の減少が予測されることから、観光により地域経済を活性化するためには、インバウンド観光の拡大が必要である。近年、インバウンドのニーズは、「量から質、モノからコト」に変化しているが、当該地域には訪日外国人観光客が求めるもの（食・温泉、伝統・文化、自然・景勝地、アクティブ）が高いクオリティで全て揃っている。日本のもっとも古い歴史を有し神話と伝説の象徴である出雲大社や、世界No.1の評価を得ているしまなみサイクリングロードについては、日本を代表するキラーコンテンツであり、このような資源を有機的に融合させた体験型のインバウンド需要は今後も確実に伸びていくものと考えられている。</p> <p>また両県では、広島県・島根県観光連携協議会を設置し、中国やまなみ街道周遊パスポートの発行等、官民連携により様々な観光キャンペーンを展開し、積極的に観光客誘致に取り組んでいる。（以下、備考欄）</p>											
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）	2,034	A	2,034	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C + D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	<p>【広島県・島根県 共通目標】尾道松江線沿線地域における総観光客数を49,817千人(H28)から53,524千人(H34)に増加（3,707千人(7.4%)の増加）</p> <p>圏域における総観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H28の年間観光客数) / (H28の年間観光客数)</p>	49817千人	51652千人	53524千人
2	<p>【広島県 独自目標】尾道松江線沿線地域における外国人観光客数を317千人(H28)から946千人(H34)に増加（629千人(198%)の増加）</p> <p>圏域における外国人観光客数 (観光客の増加割合) = (評価時点の観光客数 - H28の年間観光客数) / (H28の年間観光客数)</p>	317千人	473千人	946千人
3	<p>【広島県 独自目標】尾道松江線沿線地域における来訪者満足度を73.6% (H28) から90.0% (H34) に増加（16.4ポイントの増加）</p> <p>アンケート調査による割合 広島県観光課実施のアンケート調査結果</p>	74%	80%	90%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
<p>圏域内の豊かな観光資源と無料の高速道路の強みを最大限活用するため、高速IC等の交通拠点から観光拠点施設を連絡する道路整備等を推進し、広域的特定活動と一体となった観光周遊ルートを形成することで、移動時間の短縮と観光客の疲労・ストレスを軽減し、満足度の向上に努め、圏域内外からの観光客や外国人観光客を大幅に増加させ、広域的な地域活性化を図る。</p>												

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
広域連携事業	A11-001	道路	一般	広島県	直接	広島県	国道	改築	(国)317号 垂水工区	路肩拡幅 L=2.0km	尾道市						192	-	
	A11-002	道路	一般	広島県	直接	広島県	国道	改築	(国)183号 三次拡幅工区	現道拡幅 L=0.4km	三次市						891	-	
	A11-003	道路	一般	広島県	直接	広島県	国道	改築	(国)314号 東城バイパス工区	バイパス L=0.4km	庄原市						130	-	
	A11-004	道路	一般	広島県	直接	広島県	国道	改築	(国)432号 賀茂バイパス工区	バイパス L=1.8km	世羅町						110	-	
	A11-005	道路	一般	広島県	直接	広島県	都道府県道	改築	(主)吉舎油木線 本郷工区	現道拡幅 L=0.5km	三次市						711	-	
												小計						2,034	
												合計						2,034	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
整備計画構成自治体・団体 (広島県、島根県) 広島県土木建築局道路整備課で最終評価を実施	令和6年12月
	公表の方法
	広島県ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、尾道松江線沿線地域における観光客数及び外国人観光客数の最終目標値は達成できなかったものの、A11-001(国)317号 垂水工区及びA11-003(国)314号 東城バイパス工区の道路整備により、道路の走行性及び観光地へのアクセス性が向上し、来訪者満足度が73.6%(H28)から92.4%(R5)に上昇し、広域観光の活性化に寄与したと考えられる。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	道路整備の実施により、すれ違い困難箇所が解消されたことで交通環境が改善され、広域的周遊観光の活性化に寄与した。
特記事項(今後の方針等)	
未完了の事業については、本計画完了後も引き続き、社会資本整備総合交付金等を活用し、計画的に事業を推進する。 (未完了事業) ・A11-002、004、005	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	尾道松江線沿線地域における観光客数		
	最終目標値	53524千人	新型コロナウイルス感染症の影響により、最終目標値は達成できなかったが、令和4年度から令和5年度にかけては回復傾向(R4:34,756千人 R5:45,458千人)にある。出典：令和4年、令和5年広島県観光客数の動向
最終実績値	45458千人		
2	尾道松江線沿線地域における外国人観光客数		
	最終目標値	946千人	新型コロナウイルス感染症の影響により、最終目標値は達成できなかったが、令和4年度から令和5年度にかけては回復傾向(R4:10千人 R5:392千人)にある。出典：令和4年、令和5年広島県観光客数の動向
最終実績値	392千人		
3	尾道松江線沿線地域における来訪者満足度		
	最終目標値	90%	本計画の進捗により、尾道松江線沿線地域における来訪者満足度が73.6%から92.4%に増加し、最終目標を達成した。出典：令和5年広島県日本人・外国人観光地点パラメータ調査
最終実績値	92%		